

教材活用シリーズ 第93回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

どんな生徒でも

自力でできる英語のワーク

（株）正進社
『エイゴラボ』

おくずみ けい
奥住 桂

（埼玉県宮代町立前原中学校 教諭）

1. 従来の英語のワークとのちがひ

多くの英語教材において、「問題」といえば「知っているかどうか」「覚えているかどうか」を問うものが中心です。知っていれば書けるし、知らなければ何も書けない。解答を見て、「なんだそれか」と書き写して終わり。これがワークの限界なのだろうか。どんな生徒でも自力でできるワークはないのだろうか。と、長年考えていたときに出会ったのが『エイゴラボ』です。

このワークが画期的なのは、「どんな生徒でも自力でできる仕組み」がきちんとあるという

点です。

同じ見開きのどこかに答えやヒントが掲載されていたり、選択肢が示されていたり、並べかえ問題を中心に構成されていたりと、英語が苦手な生徒がまったく手を出せないような問題は、基本ページにはほとんどありません。

2. 自力でできる仕組みとは

不定詞のページを例に見てみましょう。
まずは動詞の原形と意味を確認、そしてそれにさをつける練習をしてから、文の中に組み込んでいく、というスムーズステップが組み

ています。最初の一步目が選択肢から選べる形式になっていることで、「スタートできない」という生徒を減らすことができます。

02 練習する Practice

2. 次の日本語の意味を表す語句を作ろう。

(1) 眠る sleep watch be sleep
 (2) サッカーを見る watch soccer
 (3) 英語の先生である be an English teacher

3. 次の日本語の意味を表す語句を作ろう。

(1) 眠ること to sleep
 (2) サッカーを見ること to watch soccer
 (3) 英語の先生であること to be an English teacher

4. 3.で作った語句を使って、次の日本語の意味を表す語句を2文作ろう。

(1) ぼくは眠ることを望みます。 I want to sleep.
 (2) 私はサッカーを見ることを好みます。 I like to watch soccer.
 (3) 彼は英語の先生になることを望んでいます。 He wants to be an English teacher.

5. 次の日本語の意味になるように、()内の語句を並べかえよう。

(1) 私はバレーボールをするのが好きです。(volleyball / to / play / like / I / .)
I like to play volleyball.
 (2) 父は音楽を聴くのが好きです。(to / my father / to / music / listen / likes / .)
My father likes to listen to music.
 (3) ぼくは今日は早く家に帰りたいです。(early / want / go home / I / today / to / .)
I want to go home early today.
 (4) 読書をするのは好きです。(like / read / you / do / to / ?)
Do you like to read?

Unit 2-2 047



そして、次のページでは、具体的な場面でその表現がどう使われるかを考えるのですが、くだけた日本語と左にあるイラストから、場面をリアルにイメージできて本当に面白いです。ここでは解答欄の下に、日本語と英語の距離感をつかむための「語順ガイド」がっています。

英語を実際に使えるものにするためには、生きた例文を読ませて、書かせて、考えさせて、練習させる必要があると思います。せつかく練習させるなら、将来使うかもしれない英文で練習させたい。『エイゴラボ』に収録されているのは、そういう「生きた例文」ばかりです。

3. 「内容」より「機能」を呼び出す力

次に、私も開発に携わったライティング問題のご紹介をさせていただきます。

これまでのワークの「表現問題」を見てみると、ターゲット文法を使った例文の「内容」の

部分を自分に関係する言葉（好きなもの・したことなど）に置き換えて書いてみよう、という問題ばかりでした。いわゆる「自己表現問題」ですが、これを本当に、家庭学習が主であるワークで行う必要があるのでしょうか。

『エイゴラボ』のライティング問題は、「内容」にあたる要素をあらかじめ提示し、それを「機能」の要素であるターゲット文法に乗せる力をつけることを目的としています。そのため、和文英訳に近い問題もありますが、それだけでなく、いくつか挙げた項目から自分の気持ちや実態にもっとも近いものを選択して「内容」を決めていくような「自己決定の仕組み」を意図的に設定したつもりです。

また、ターゲットとなる文法事項を使って書くだけでなく、既習の文法事項や表現を使って書く文も意図的に織り交ぜています。「不定詞のページだから不定詞を使おう」というようなライティングの練習ばかりでは、自律的に英文が書けるようにはならないでしょう。

▲「アンケート」形式の表現問題例

▲「チャット」形式の表現問題例

上の段の例にあるように、選択項目を提示する場合も「レシート」「メニュー表」「アンケート」「グラフ」など、リスト化されていることが必然的であるものをできるだけ選んでいます。

もうひとつこだわったのは「書く場面」です。これからの時代の英語ユーザーである中学生が英語を読み書きするのはネットワーク上が多くなるであろうということを考慮し、SNS・チャットなどの形式も採用しました。今後はさらに「会話を書く」ことが自然な行為となっていくはずですが。

このようにして、書かせる内容がある程度コントロールするメリットは、「答え合わせのしやすさ」にあります。解答冊子だけでは答え合わせが難しかった従来のワークとは異なり、このワークのほぼすべての自己表現問題では、解答例を示すことが可能となっています。

4. 持ち歩きたくなる解答冊子

さらなる特長は解答です。『ミニラボ』という名の本誌縮刷の冊子は、赤シートつきで何度でも復習ができるため、日頃から持ち歩く生徒の姿をよく見かけるようになりました。また、私は本誌より先に、授業中に『ミニラボ』を使って音読練習をさせてしまうことも多く、この場合、理解・暗記した英文を文字に書くことで、より確実な力を身につけることができます。

このように、「どんな生徒でも自力でできる仕組み」が満載の『エイゴラボ』。ぜひ実際の見本をお手にとっていただけると嬉しいです。